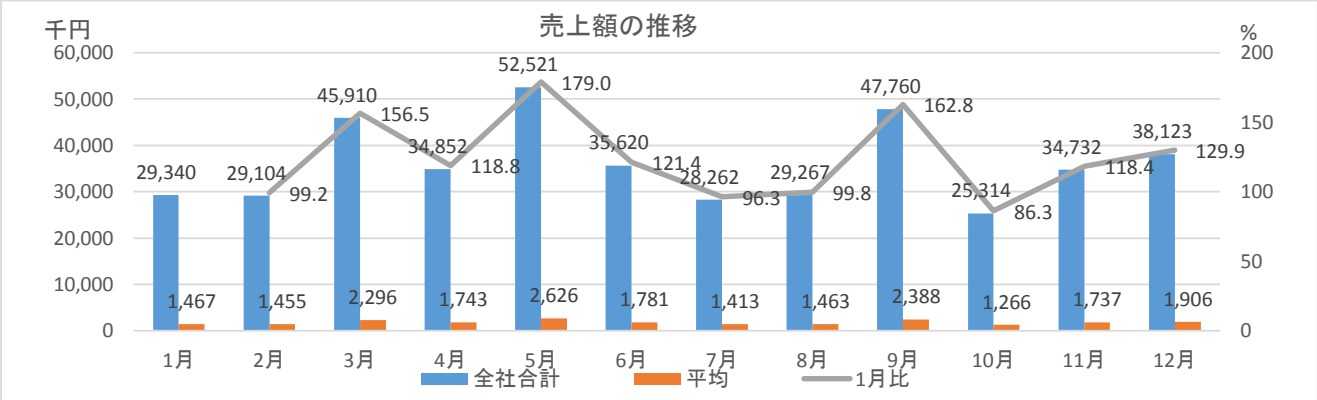
中能登町商工会小規模事業者景況調査結果（調査期：平成29年7月～12月）

・前年同期比は、今期と平成28年7月～12月との比較
・来期見通しは、当期と比較した平成30年1月～6月の見通し
・対象企業：卸小売業 5社、サービス業5社、製造業5社、建設業5社
※卸小売業、建設業で対象企業の変更があります。

１．売上額の推移（平成29年）

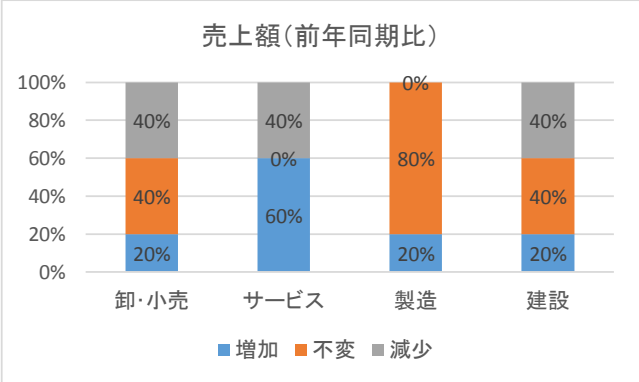
1月を100とした場合の売上額の推移



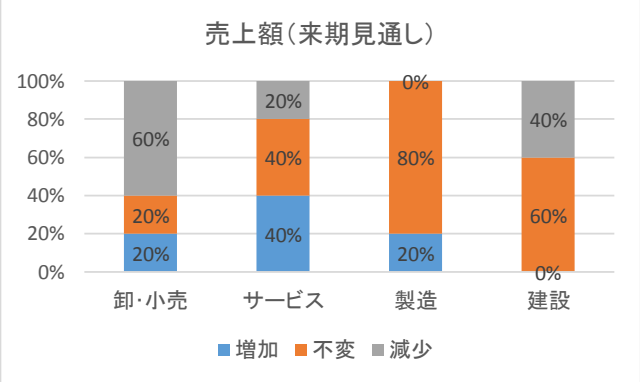
売上額の多い月は５月、９月、３月の順、１月を100とした全社売上額合計は、３月が約1.8倍、最も少なかった10月の２倍以上となっている。全体的に波はあるが、横ばいといえる。

２．平成29年1月から6月期の状況

（１）売上額

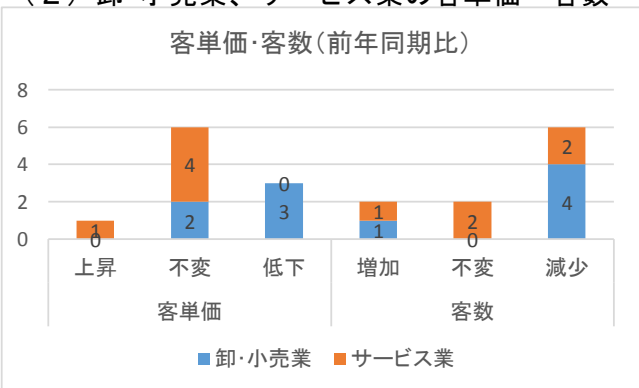


前年同期比で増加が多いのは「サービス」で、「製造」で減少がなかった。

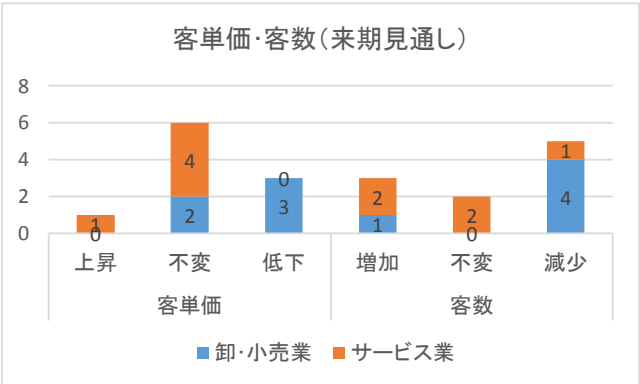


来期見通しでも増加が多いのは「サービス」。減少が多いのは「卸小売」であった。「建設」は増加がなく、不変が６割を占めた。

（２）卸･小売業、サービス業の客単価・客数

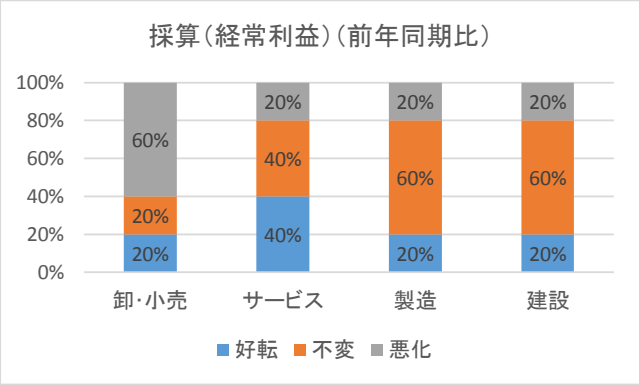


前年同期と比較して、客単価は、「サービス」で不変または上昇、「卸小売」は低下または不変に偏っている。客数の減少は「卸小売」が多くなっている。

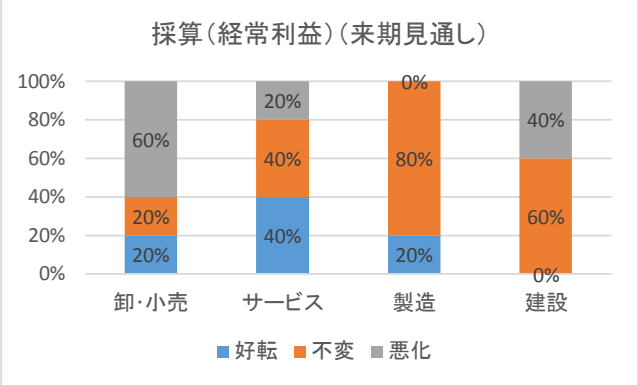


「サービス」で客単価が不変または上昇と改善を見込んでいるが、「卸小売」は逆に低下または不変を見込んでいる。客数は「卸･小売」で特に減少が多い。

（３）採算（経常利益）

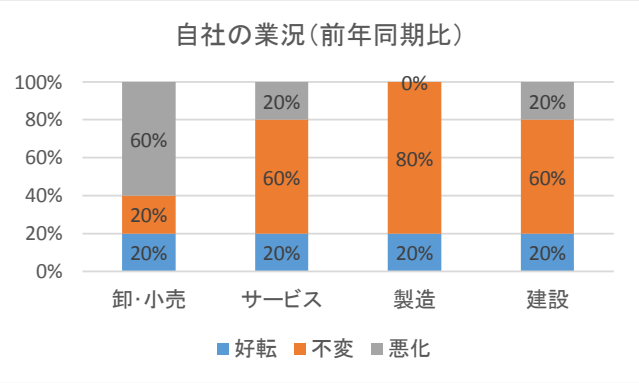


採算は、前年同期に比べ、「サービス」で好転が多い。「卸小売」は悪化が６割と突出、「製造」、「建設」とも不変が６割の最多であった。

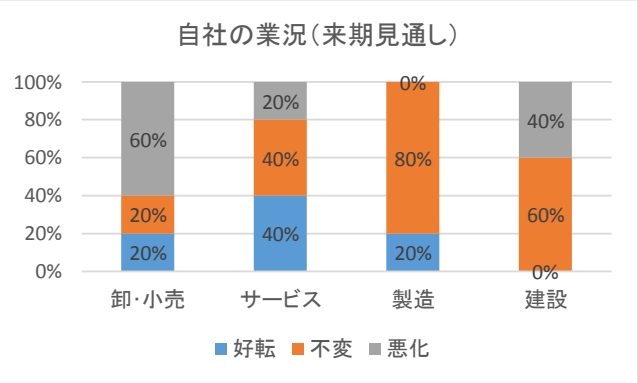


採算は、「卸小売」で悪化が６割と最多、「建設」は好転の見込みはなかった。

（４）業況



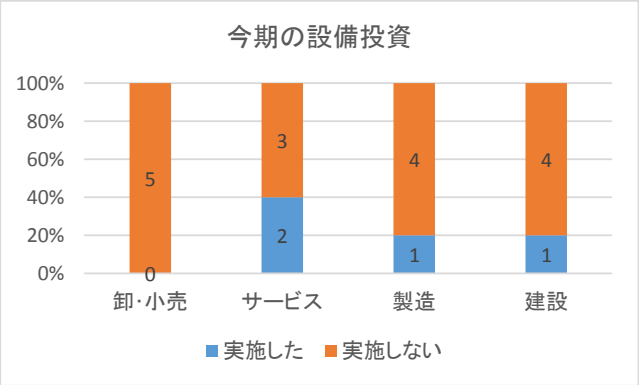
前年同期に比べ、全業種で好転が２割、「卸小売」では悪化が６割と最多であった。「製造」は不変が８割、悪化はなかった。



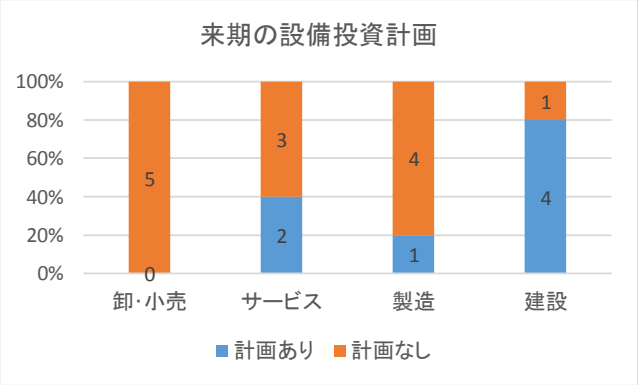
来期見通しは、「サービス」が好転４割に増加、「卸小売」は悪化が６割となっている。

３．設備投資の状況

（１）設備投資の実績と計画



サービス業で２件、卸小売業以外で１件ずつ設備投資を実施した。



卸･小売以外は、設備投資計画があり、建設業では４件で計画がある。

（２）設備投資内容

（今期の実績）

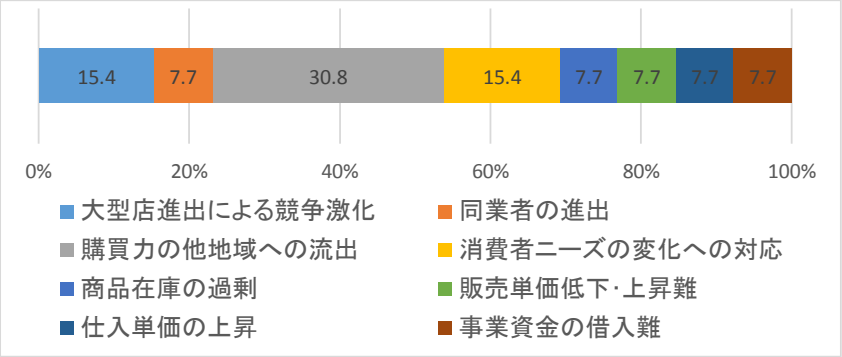
- サービス業･･･車両等
- 製造業･･･生産設備
- 建設業･･･車両等

（来期の計画）

- 建設業･･･車両、建設機械、建物、事務機器等
- サービス業･･･土地･建物、サービス機器
- 製造業･･･生産設備、車両等

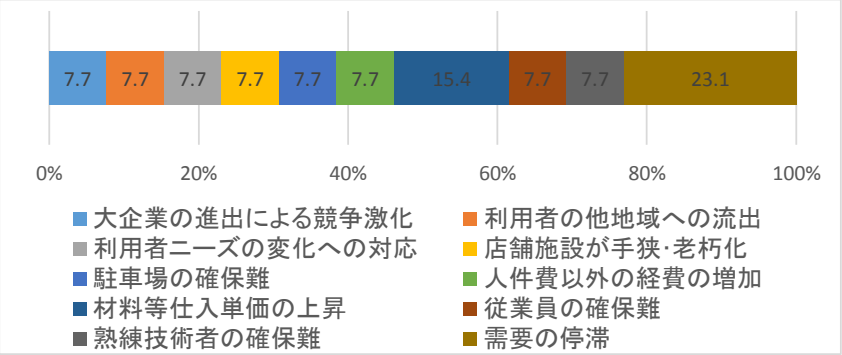
４．今期直面する経営課題　　※複数回答

（１）卸･小売業



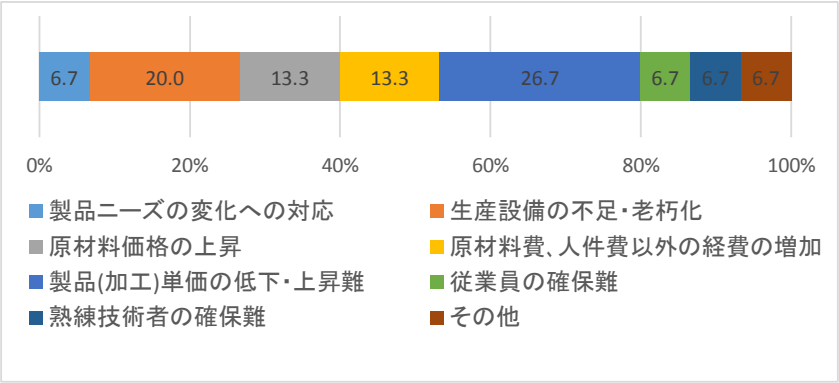
「購買力の他地域への流出」が３割以上と最多で、「大型店進出による競争激化」、「消費者ニーズの変化への対応」が同数で続いている。

（２）サービス業



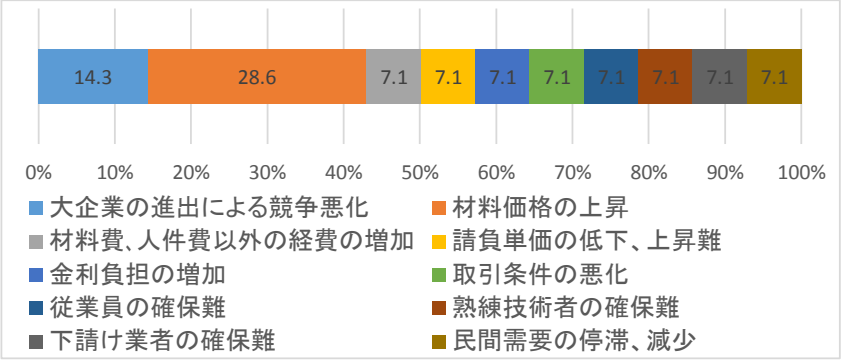
「需要の停滞」が最多で、「材料仕入単価の上昇」が続いている。

（３）製造業



「製品（加工）単価の低下･上昇難」が最も多く、「生産設備の不足･老朽化」が続いている。

（４）製造業



「材料単価の上昇」が最多で、「大企業の進出による競争悪化」が続いている。

５．今期の業況、感じていること

・運賃上昇、仕入単価上昇
・ネットや通販普及による影響
・客単価の低下
・ネット販売を強化したい
・集客は若年層がＳＮＳ、高年齢層はテレビの効果大きい
・生産設備が老朽化し、部品調達も困難で、将来的に不安。
・引き合いはあるが、人手不足、技術不足で機会を逸している。

能登地域でも人手不足、従業員の高齢化による技術者不足が課題になっている。間接的に輸送コスト増加や原材料高騰を招き、価格に転嫁できず、利益縮小、採算悪化へとつながっている。販路開拓や集客は、ターゲットとなる年代や購買行動などを分析して、適切な手段を講じることで成果を上げている企業があり、また、一生懸命に取り組んでいる企業もある。